

国際石油開発帝石株式会社

2020年12月期 第2四半期 決算説明会

2020年8月7日

INPEX



- **事業活動報告**
- **2020年12月期 第2四半期 決算説明**
- **2020年12月期 業績予想**

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

事業活動報告

INPEX

代表取締役社長
上田 隆之

	連結売上高	親会社株主に 帰属する純損益	ベース純利益*1	ネット生産量 (原油換算、 2020年1月～6月)
第2四半期決算 (2020年1月～6月)	3,916億円 (前年同一期間*2比30.5%減)	△1,207億円	364億円 (前年同一期間*2比51.5%減)	日量58.2万バレル (前年同一期間*2比9%増)

*1 ベース純利益:親会社株主に帰属する当期純損益から一過性損益を控除した額

*2 前年同一期間は、2019年1月～6月

通期業績予想	<ul style="list-style-type: none"> ■ 連結売上高 7,300億円 ■ 親会社株主に帰属する純損益 △1,360億円 ■ ベース純利益*1は362億円
1株当たり配当金	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前回予想から変更なし ■ 中間:12円、期末:12円(予想)、年間:24円(予想)
油価下落への対応	<ul style="list-style-type: none"> ■ 投資・コスト削減 ■ 十分な流動性およびフリーキャッシュフローの確保 ■ 新型コロナウイルス感染症対策と安定操業の継続
プロジェクトハイライト	<ul style="list-style-type: none"> ■ イクシスLNGプロジェクト:順調な生産を継続 ■ アバディLNGプロジェクト:FEED準備作業を継続 ■ アブダビ油田:生産能力増強に向けた開発作業中

■ 減損損失の計上

- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大の影響によるエネルギー需要の落ちこみ等による原油価格の大幅な下落を背景に、当社グループ全体の資産の再評価を行った結果、第2四半期において、約1,924億円(税効果考慮後の純損益影響額は約1,627億円)の減損損失を計上。

地域	プロジェクト	減損損失(億円)
オセアニア	プレリユードFLNGプロジェクト	1,308
	バユ・ウンダンガス・コンデンセート田	89
米州	イーグルフォードシェールオイルプロジェクト	336
	ルシウス油田	189
合計		1,924

■ 通期業績予想の修正

- ▶ 第2四半期に計上した一過性損益(減損損失等)等により通期の親会社株主に帰属する純損益は、前回予想100億円の利益から1,460億円減益の1,360億円の損失となる見通し。なお、一過性損益(減損損失等)を除くベース純利益は362億円。

	前回発表予想 (2020年5月12日)	今回発表予想 (2020年8月6日)	(参考) ベース純利益
親会社株主に帰属する純損益	100億円	△1,360億円	362億円

■ 配当

- ▶ 中間12円、期末12円(予想)、年間24円の予想を維持。

【中期経営計画の還元方針】

2018年度から2022年度までの中期経営計画期間中、安定的な配当を基本とし、配当性向は30%以上として、業績の成長に応じて段階的に株主還元を強化していくことを基本方針とする。

■ 2020年度の投資・コスト削減目標および進捗状況

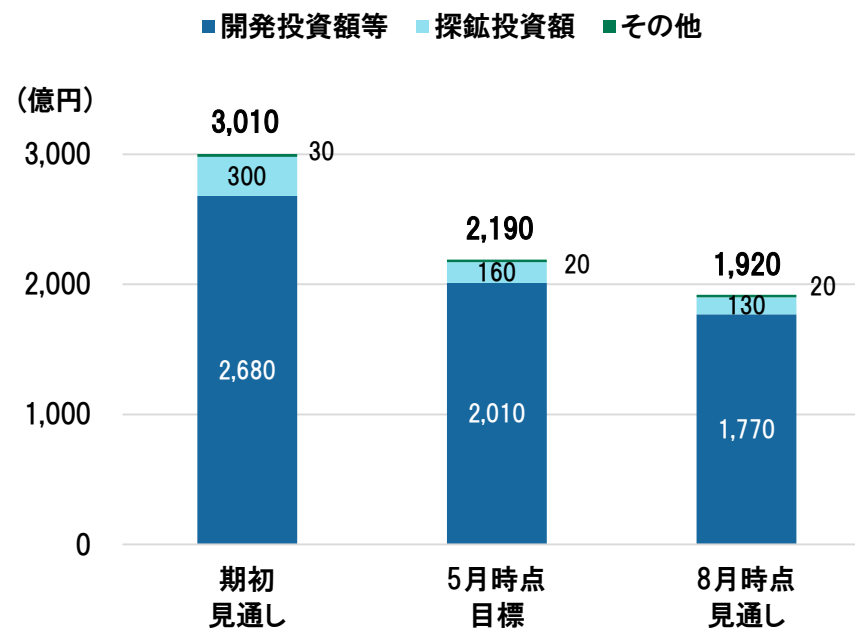
- 目標である開発投資20%超、探鉱投資40%超の削減(当社全体・期初見通し比)に鋭意取り組んできた結果、中間時点において開発投資30%超、探鉱投資50%超と目標を上回る進捗

■ 2021年度以降も、当面低油価が継続する場合に備え、投資・コスト削減を検討

■ 今後、操業費、各種管理費を含むあらゆる経費について一層のコスト削減を進める

2020年度の投資額見通し

(億円)	期初 見通し	5月時点 目標	8月時点 見通し	対期初見通し	
				差分	率
開発投資額等	2,680	2,010	1,770	△ 910	△ 34%
探鉱投資額	300	160	130	△ 170	△ 57%
その他	30	20	20	△ 10	△ 33%
成長投資合計	3,010	2,190	1,920	△ 1,090	△ 36%

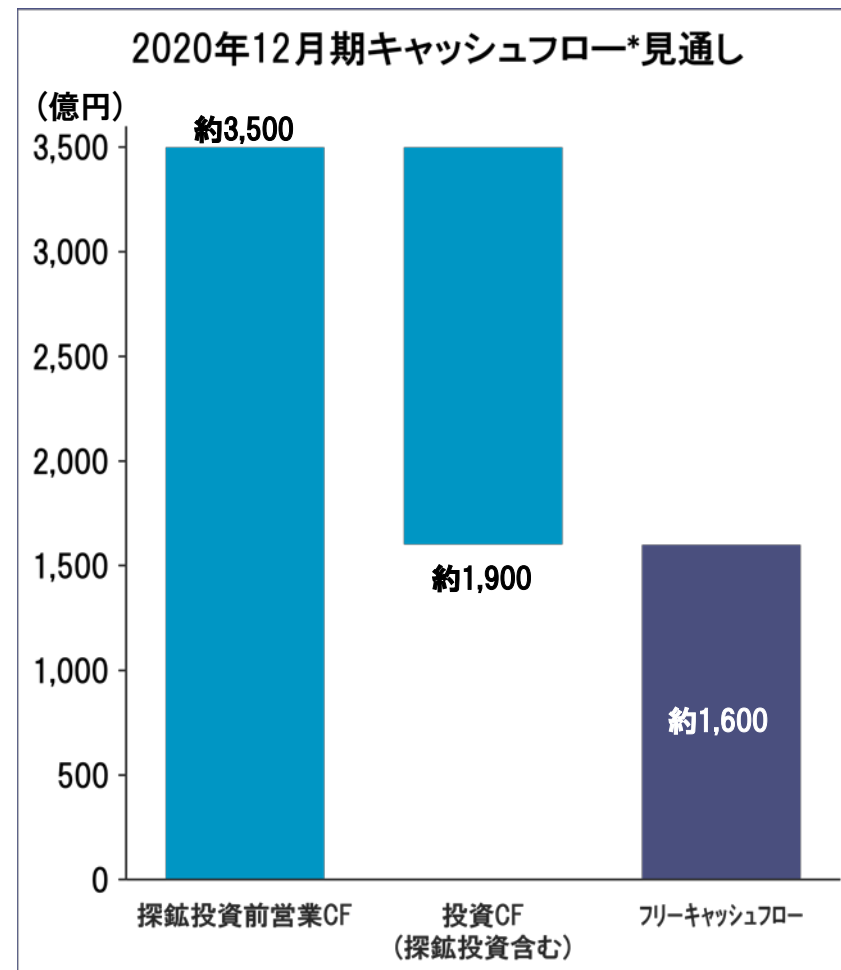


■ 投資・コスト削減の取り組み事例

- イクシス(豪州):各種投資計画・操業作業の見直し
- アブダビ:掘削費用の削減、各種作業の中止・先送りを検討
- イーグルフォード(米国):新規生産井の掘削、仕上げ(フラクチャリング)作業の先送り、必要最低限の義務作業のみ実施し、油価に応じて柔軟に計画を変更
- 探鉱投資:豪州、メキシコ湾、アブダビ陸上等において、試掘井や評価井の掘削先送り・中止を検討
- 新規案件:厳選して検討

■ 当社は十分な手元資金及びコミットメントラインにより潤沢な手元流動性を確保していますが、以下のような施策により、財務基盤の更なる強化を図ります。

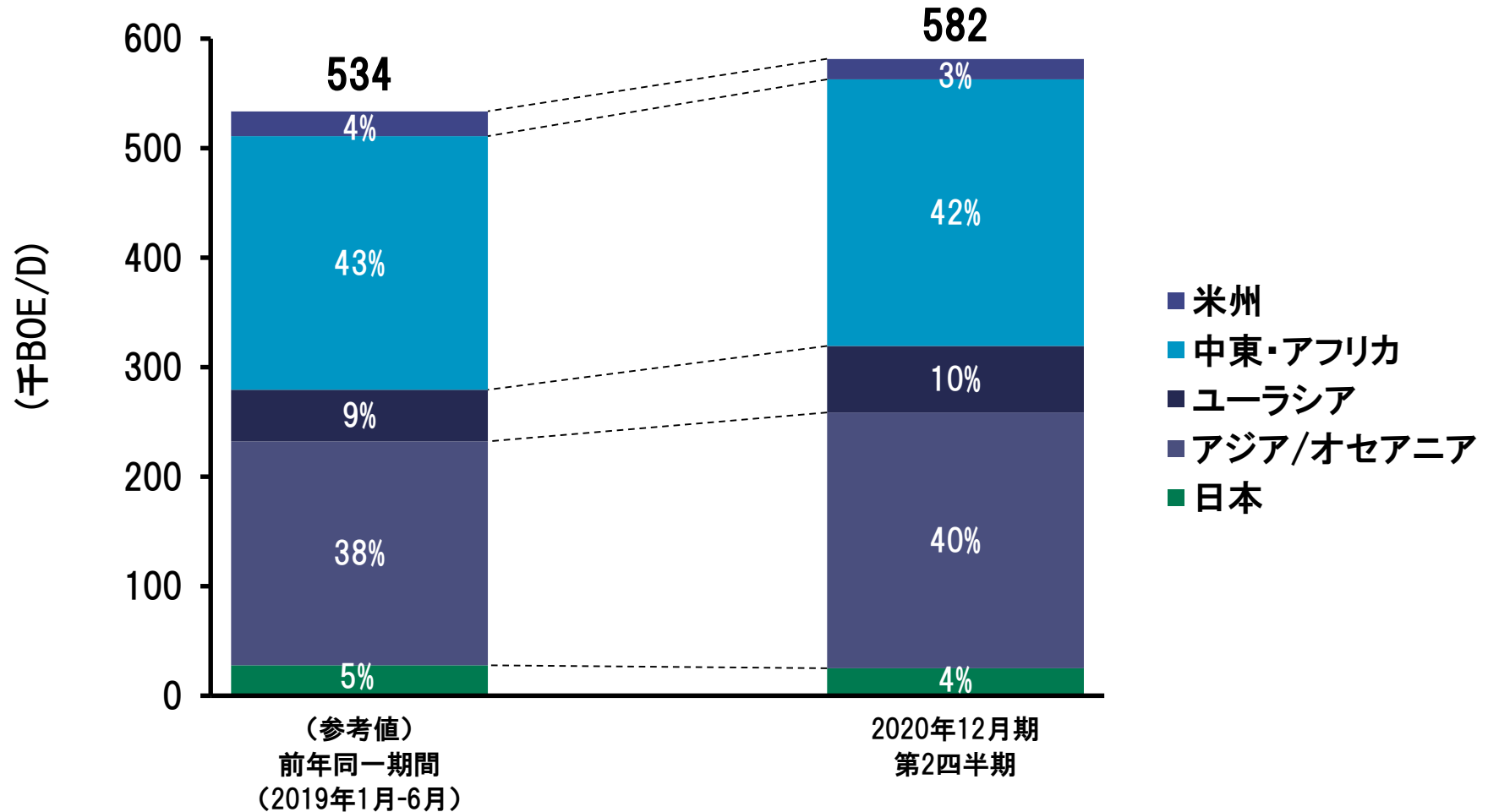
- 潤沢な手元流動性を維持。2020年12月期末時点の手元資金残高は、約2,000億円の見込み。
- コアバンクから十分な規模・期間のコミットメントラインを維持・追加設定。
- 1,600億円程度のフリーキャッシュフロー*を確保する見込み。



* イクシス下流会社を含む

- 当社がオペレーターを担う豪州のイクシスLNGプロジェクト、国内の南長岡ガス田、直江津LNG基地等、当社の事業基盤となる主要プロジェクトにおいて、従業員の健康・安全を最優先を前提に様々な対策を講じ、安定操業・安定生産を継続しております。
 - イクシスLNGプロジェクトでは、早期から隔離期間を含む特別シフトの導入や現場立ち入り前の問診・検温の実施、寄港するLNG船等に対する各種制限・要請等による感染防止策を講じてきた。今後も引き続き状況に応じた適切な措置を取っていく予定。
 - 国内事業では、現場への操業要員以外のアクセス制限、感染者発生時に備え予備人員を確保する等の対策を実施。事務所要員との動線分離やゾーニングにより操業要員の感染リスク低減を図り、安定操業の維持に努めている。
 - 米国シェールオイルプロジェクト(Eagle Ford)では、操業現場の入構者に対する医療スクリーニングの実施や体温チェックによる感染監視対策を実施。また、マスク・消毒液の使用や消毒作業を徹底するとともに、感染者発生時の対策・復旧手順を確立。
 - 他の原油・ガス生産操業においても、引き続き新型コロナウイルス感染防止策を強化しながらエネルギーの安定供給を継続。
- 東京赤坂本社においては、2月に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、従業員への在宅勤務の推奨や出張の制限等の感染予防対策を講じてきました。緊急事態宣言発令時には原則100%在宅勤務、宣言解除後は概ね70%の在宅勤務を継続しながら、出勤時は時差通勤やコアタイムなしのフレックスタイム制により密を避け、罹患リスクの低減に努めております。

■ 上半期ネット生産量の主な増加要因は、イクシスプロジェクトのランプアップ。



* 2020年1～6月のネット生産量。当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの生産量は、正味経済的取分に相当する数値。

■ 生産状況

- 新型コロナウイルス感染症への様々な対策を講じてきたことで、操業停止などもなく、順調な生産を継続している状況

■ 出荷LNGカーゴ数

- LNGカーゴ:56カーゴ(2020年1月~6月)
- 今期は月10LNGカーゴ程度の出荷を見込む

期間	LNG	陸上コンデンセート	海上コンデンセート	LPG
2018年10月~2019年3月	31	4	10	6
2019年4月~12月	84	16	23	23
2020年1月~6月	56	9	16	16
生産開始から2020年6月までの累計	171	29	49	45

■ プロジェクトファイナンスのリファイナンス

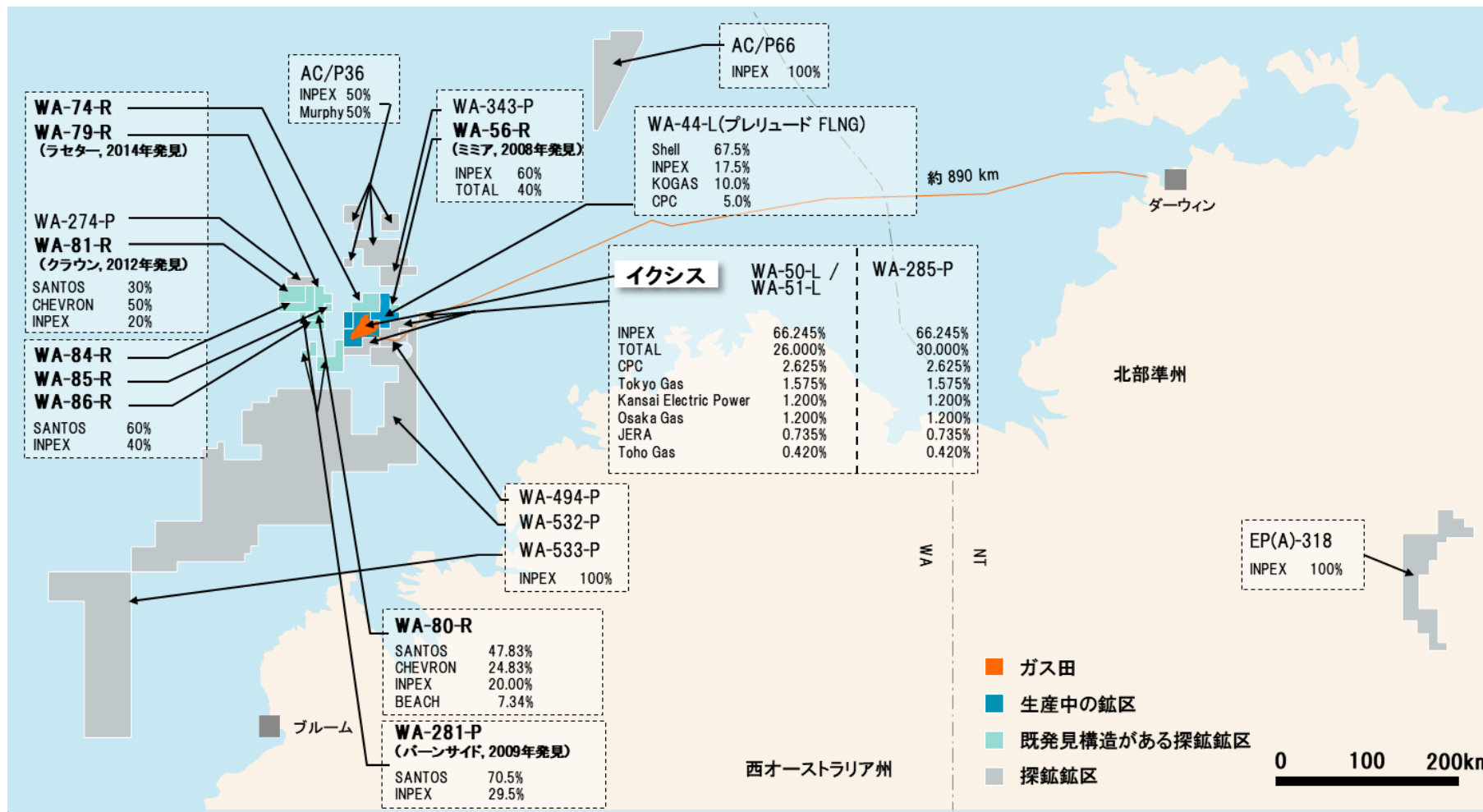
- 2020年6月、約83億米ドルのリファイナンスを実施
- 金融費用の軽減

■ OPEX(操業費)

- イクシスの生産コストは、他の当社生産プロジェクトと比較して競争力のある水準

■ メンテナンス計画

- 2020年度は大規模なメンテナンスの予定なし



- イクシスLNGプロジェクト周辺には18の探鉱鉦区を保有。これまでに、クラウン、ラセター、ミミア、バーンサイド等のガス構造を発見し、これらのガス構造は少なくとも9鉦区に亘る
- 従前よりダーウィンに複数の追加トレインが建設可能な用地確保済

■ 生産規模

- 天然ガス総生産量(LNG換算) 年産1,050万トン
 - LNG年産950万トン規模
 - 鉱区周辺地域の現地需要向けにパイプラインガス供給を予定
- コンデンセート日量最大約3.5万バレル規模

■ 契約期間

- 1998年11月16日～2055年11月15日
- 2019年10月、生産分与契約(PSC)の期限を2028年から2055年とする延長契約等を締結

■ マイルストーン

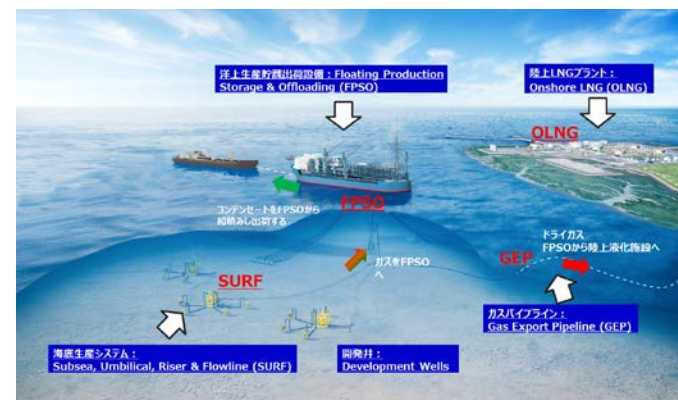
- 2017年6月にインドネシア政府からNational Strategic Projectに、同年9月にはPriority Infrastructure Projectに認定
- 2019年7月に陸上LNGによる開発を前提とした改定開発計画(POD)についてインドネシア政府当局の承認を取得
- 2020年2月にインドネシア国営電力および国営肥料会社との間で、インドネシア国内向けのLNGおよび天然ガスの長期供給に関する覚書を締結

■ 十分な経済性を有するプロジェクト

- 契約期間を2055年まで確保済
- アバディガス田は世界有数の良好なガス田性状を有し、効率的な生産が可能
- 年産950万トン規模のLNGおよびパイプラインガスを20年以上にわたって供給可能な埋蔵量を確認済
- 十分な財務条件(間接税の免除、インベストメントクレジット、税引後利益配分比率の増加といった3つの経済的インセンティブ)を確保済

■ 今後の予定

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により遅れが見込まれるが、早期の基本設計(FEED)作業開始を目指し準備中。FEED作業には、1年～2年の期間を要する見込み
- 今後、2020年代後半の生産開始を目指し、FEED作業を実施する予定
- イクシスで獲得した知見・経験を活かした効率的な開発を推進



アバディLNGプロジェクト 開発コンセプト

アブダビ陸上鉱区

（生産中：アブダビ首長国）



■ 目標生産能力

- 日量約200万バレル

■ 進捗

- 2020年末までに生産能力を日量200万バレルへと引き上げるべく開発作業中

アブダビ海上油田

（生産中：アブダビ首長国）

（上部ザクム油田・下部ザクム油田・サター油田・ウムアダルク油田）



■ 目標生産能力

- 上部ザクム油田：日量約100万バレル
- 下部ザクム油田：日量約45万バレル
- サター油田：日量約2.5万バレル
- ウムアダルク油田：日量約2万バレル

■ 進捗

- 4油田合計の生産能力を日量150万バレルに引き上げるべく開発作業中
- 下部ザクム油田においては、アセットリーダーとしてADNOC（アブダビ国営石油会社）及びパートナー各社と密接に連携し、主導的な立場で開発作業中

カシャガン油田

（生産中：カザフスタン）



■ 進捗

- 日量37万バレル達成済。生産日量45万バレルを目指し作業中

ACG油田

（生産中：アゼルバイジャン）



■ 進捗

- 2019年12月、累計生産量500百万トン（37億バレル）を達成

国内天然ガス事業



直江津LNG基地

- 天然ガス販売量*
- 2019年12月期販売量(9ヶ月):15.1億m³
- 2020年12月期上半期(6ヶ月)販売量:10.7億m³
- 2020年12月期(12ヶ月)販売量見通し:20.6億m³
- 直江津LNG基地
- 2013年12月、直江津LNG基地の商業運転開始
- 2016年6月、富山ライン完成
- 2018年10月、イクシスの第1船(パシフィック・ブリーズ)が入港
- 2019年2月、イクシスからオセアニック・ブリーズが初入港

* 1m³当たり41.8605MJ換算

再生可能エネルギー事業・ CO₂有効利用技術開発事業



メタネーション試験設備

- インドネシア サルウラ地熱IPP事業
- 2018年5月から商業運転中
- 国内地熱事業
- 秋田県湯沢市小安地域での地熱発電所建設へ向けた環境アセスメントの継続実施
- 2020年に一斉噴気試験の開始
- メタネーション
- NEDOのCO₂有効利用技術開発事業として、CO₂と水素からメタンを合成する試験設備を設置、試運転を経て各種試験運転を実施中
- 洋上風力発電事業
- 2020年5月に秋田県における洋上風力発電事業実施に向けたコンソーシアムに参画

2020年12月期 第2四半期 決算説明

INPEX

取締役 常務執行役員
財務・経理本部長 山田大介

- 2019年12月期より決算期を3月31日から12月31日に変更したことに伴い、本資料では、2020年12月期第2四半期は、(参考値)前年同一期間と比較する。

<(参考値)前年同一期間(2019年1月-6月)*1 >

	2019年				2020年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
当社および旧仮決算子会社等*2	(参考値) 前年同一期間				2020年12月期 第2四半期			
旧12月決算子会社*3								

*1 参考値は、監査法人による監査は受けておらず、比較のためのもの。

*2 当社、主な国内連結子会社、海外プロジェクトの仮決算子会社。仮決算子会社とは決算日は12月31日であるが、連結決算に与える影響が相対的に大きいため、3月31日に組み替えて決算を行った子会社。

*3 決算日が12月31日の子会社。

	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
売上高(億円)	5,631	3,916	△ 1,714	△ 30.5%
原油売上高	4,213	2,463	△ 1,750	△ 41.5%
天然ガス売上高(LPG含む)	1,323	1,382	58	4.5%
その他	94	71	△ 23	△ 25.0%
営業利益(億円)	2,691	1,237	△ 1,453	△ 54.0%
経常利益(億円)	2,707	1,492	△ 1,214	△ 44.9%
親会社株主に帰属する純損益(億円)	824	△1,207	△ 2,032	-
1株当たり*純損益(円)	56.48	△82.73	△ 139.21	-

期中平均油価(Brent)(\$/bbl)	66.17	42.10	△ 24.07	△ 36.4%
期中平均為替(¥/\$)	110.06	108.25	1円81銭円高	1.6%円高

* 期中平均株式数:1,460,203,039株

	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
売上高 (億円)	4,213	2,463	△ 1,750	△ 41.5%

販売量 (千bbl)	57,784	60,894	3,111	5.4%
海外平均単価 (\$/bbl)	66.21	37.27	△ 28.94	△ 43.7%
国内平均単価 (¥/kl)	46,270	31,382	△ 14,888	△ 32.2%
平均為替 (¥/\$)	110.13	108.41	1円72銭円高	1.6%円高

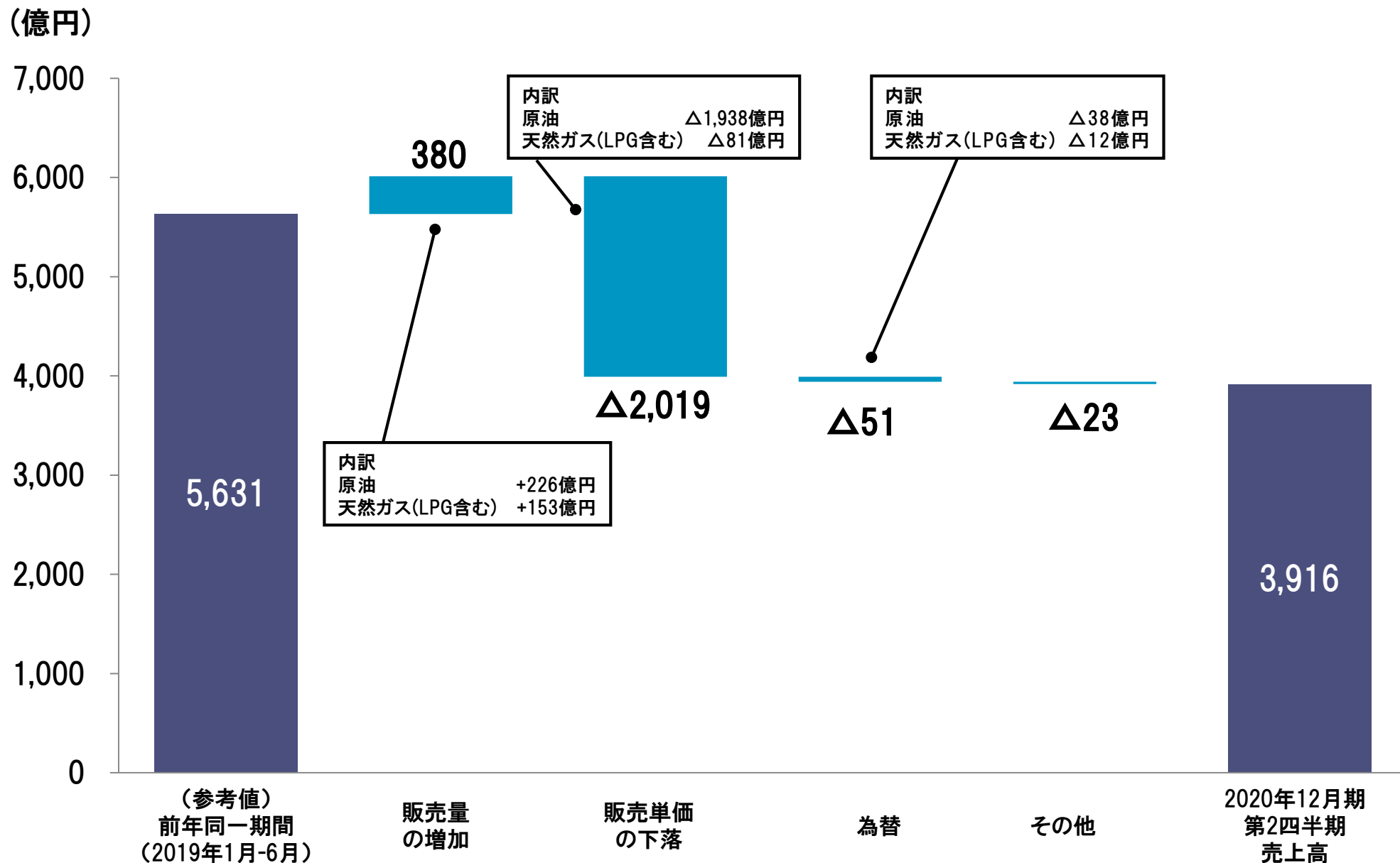
地域別販売量 (千bbl)	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
日本	403 (64.1千kl)	335 (53.2千kl)	△ 68 (△10.9千kl)	△ 17.0%
アジア・オセアニア	7,719	7,209	△ 510	△ 6.6%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	6,417	8,486	2,070	32.3%
中東・アフリカ	42,531	42,925	394	0.9%
米州	714	1,940	1,225	171.6%
合計	57,784	60,894	3,111	5.4%

	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
売上高(億円)	1,309	1,367	58	4.4%

販売量(百万cf)	185,197	222,856	37,659	20.3%
海外生産分平均単価(\$/千cf)	4.21	4.17	△ 0.04	△ 1.0%
国内分平均単価(¥/m ³)	57.46	50.65	△ 6.81	△ 11.9%
平均為替(¥/\$)	110.10	108.45	1円65銭円高	1.5%円高

地域別販売量(百万cf)	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
日本	41,866 (1,122百万m ³ *)	39,826 (1,067百万m ³ *)	△ 2,040 (△55百万m ³ *)	△ 4.9%
アジア・オセアニア	126,285	168,905	42,620	33.7%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	3,983	4,853	870	21.8%
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	13,063	9,272	△ 3,791	△ 29.0%
合計	185,197	222,856	37,659	20.3%

*1m³当たり41.8605MJ



(億円)	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
売上高	5,631	3,916	△ 1,714	△ 30.5%
売上原価	2,468	2,260	△ 208	△ 8.4%
売上総利益	3,163	1,656	△ 1,506	△ 47.6%
探鉱費	102	46	△ 55	△ 54.1%
販売費及び一般管理費	369	371	2	0.6%
営業利益	2,691	1,237	△ 1,453	△ 54.0%
営業外収益	232	453	221	95.2%
営業外費用	216	199	△ 17	△ 8.1%
経常利益	2,707	1,492	△ 1,214	△ 44.9%
特別損失(減損損失)	54	1,924	1,869	-
法人税等合計	1,893	782	△ 1,110	△ 58.7%
非支配株主に帰属する純損益	△ 65	△ 6	59	-
親会社株主に帰属する純損益	824	△ 1,207	△ 2,032	-

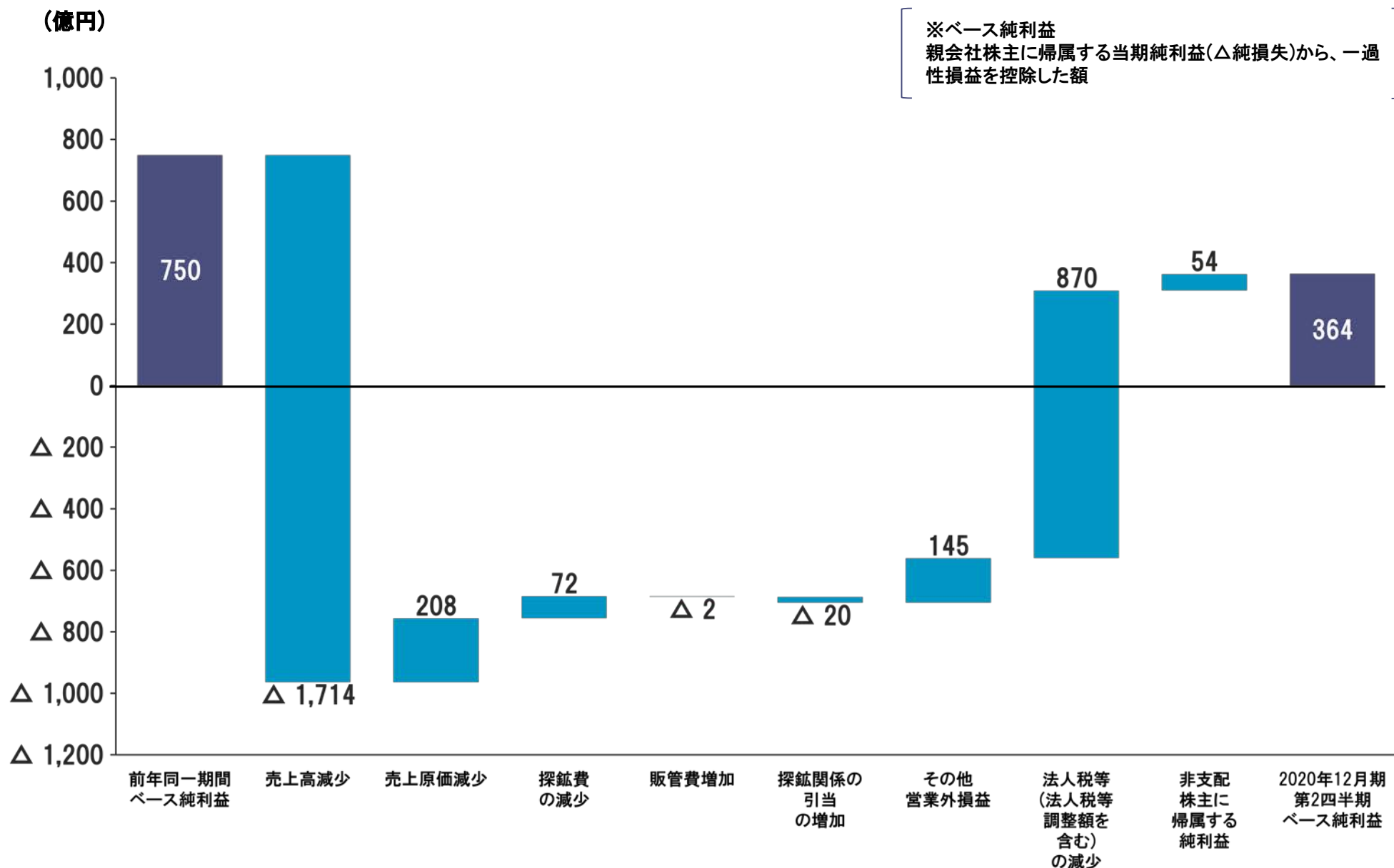
販売量の増加	+380
販売単価の下落 為替	△2,019
その他	△51
	△23

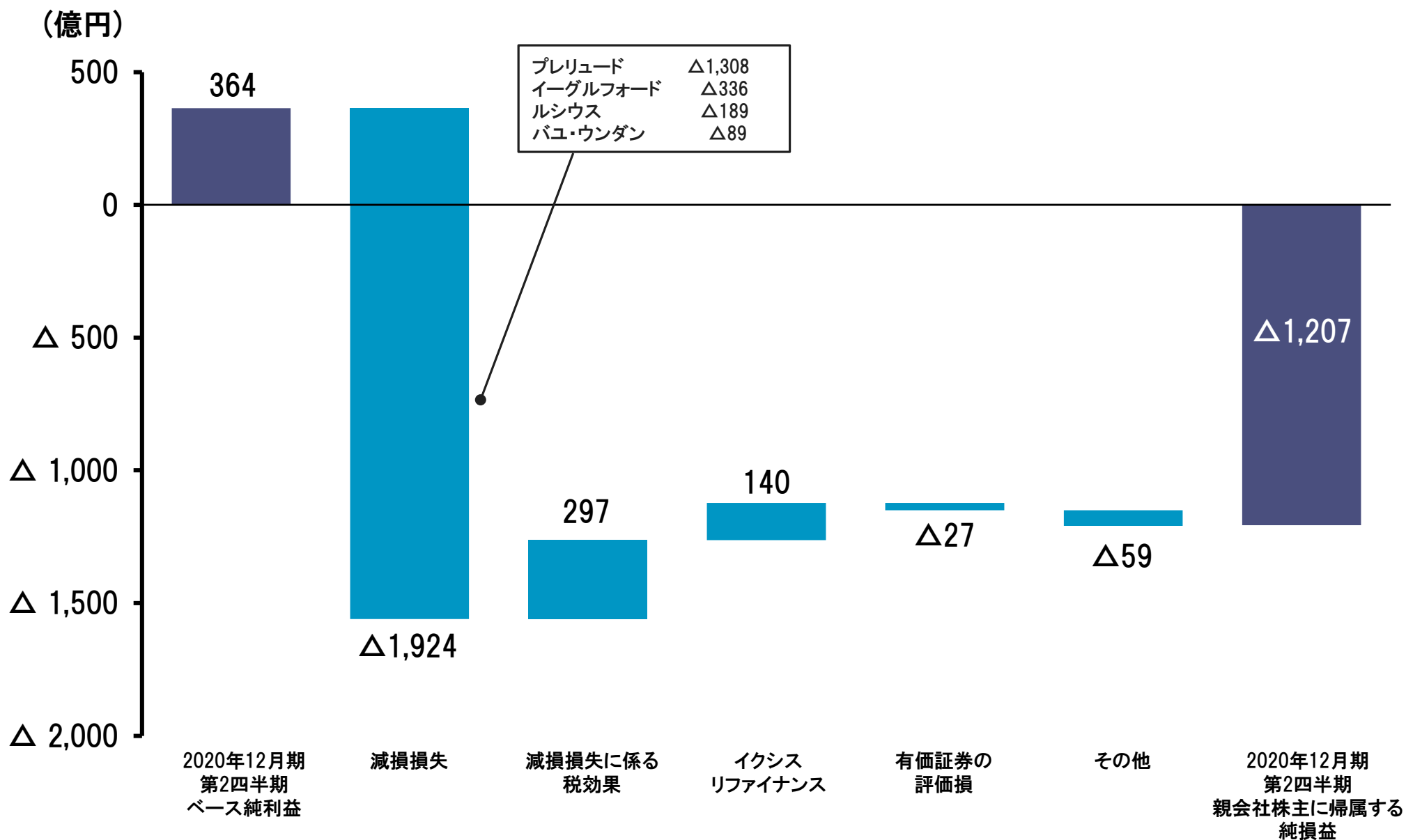
原油売上原価: (増減)	1,383 △317
天然ガス売上原価 ^(注) : (増減)	819 +126
(注)LPGを含む。	

主な要因	
持分法による投資利益 (増減+211)	
為替差益 (増減+37)	

主な要因	
為替差損 (増減△56)	

主な要因	
プレリユード (増減+1,308)	
イーグルフォード (増減+ 336)	
ルシウス (増減+ 189)	
バユ・ウンダン (増減+ 89)	





(億円)	2019年12月期末	2020年12月期 第2四半期末	増減	増減率
流動資産	4,198	5,122	924	22.0%
有形固定資産	22,753	21,154	△ 1,598	△ 7.0%
無形固定資産	5,353	4,540	△ 812	△ 15.2%
生産物回収勘定	5,683	5,734	50	0.9%
その他	11,180	10,849	△ 330	△ 3.0%
生産物回収勘定引当金	△ 668	△ 691	△ 22	3.3%
資産合計	48,499	46,710	△ 1,789	△ 3.7%
流動負債	4,014	3,729	△ 285	△ 7.1%
固定負債	11,513	12,439	926	8.0%
純資産	32,971	30,541	△ 2,430	△ 7.4%
(うち非支配株主持分)	2,564	2,522	△ 41	△ 1.6%
負債・純資産合計	48,499	46,710	△ 1,789	△ 3.7%
1株当たり純資産額 (円)	2,082.43	1,918.88	△ 163.55	△ 7.9%

イクシス下流事業会社(持分法適用)の要約財務情報(100%ベース、内当社株式比率は66.245%)

・流動資産	810億円
・固定資産	3兆6,302億円
・総資産	3兆7,112億円

※固定資産にはFID前投資、借入金の支払利息分等が含まれる

うち、長期・短期借入金の合計1.2兆円。
これに、オフバランスのイクシス下流事業会社分を加えた当社のネット借入金概算(20年6月末)は約2.2兆円。

株主資本合計	△1,470億円
その他の包括利益累計額	△917億円
・繰延ヘッジ損益	△479億円
・為替換算調整勘定	△363億円

(億円)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	(参考値) 2019年12月期 第2四半期 (2019年4月-9月)
税金等調整前四半期純利益	△ 431	2,711
減価償却費	888	830
減損損失	1,924	-
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	148	193
生産物回収勘定(非資本支出)の増減額(△は増加)	△ 12	△ 42
法人税等の支払額	△ 1,214	△ 1,870
その他	432	△ 276
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,735	1,545
定期預金の預入による支出/払戻による収入	△ 541	0
有形固定資産の取得による支出	△ 682	△ 662
有価証券・投資有価証券の取得による支出/売却による収入	8	△ 10
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△ 189	△ 218
長期貸付けによる支出/回収による収入	△ 254	△ 751
権益取得による支出	-	△ 300
その他	△ 19	△ 1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,677	△ 1,944
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,240	249
現金及び現金同等物の期末残高	3,031	2,191

2020年12月期 業績予想

INPEX

取締役 常務執行役員
財務・経理本部長 山田大介

■ 前提条件

(2020年5月12日)	第2四半期連結累計期間 (前回発表予想)
Brent 油価(\$/bbl)	40.4
為替レート(円/US\$)	109.5



(2020年8月6日)	第2四半期連結累計期間 (実績)
Brent 油価(\$/bbl)	42.1
為替レート(円/US\$)	108.3

■ 第2四半期連結累計期間 業績予想値と実績値との差異(2020年1月～6月)

	前回発表予想 (2020年5月12日)	実績値	増減	増減率
売上高 (億円)	4,080	3,916	△163	△4.0%
営業利益 (億円)	1,330	1,237	△92	△6.9%
経常利益 (億円)	1,450	1,492	42	2.9%
親会社株主に帰属する純損益 (億円)	350	△1,207	△1,557	—

■ 前提条件

(2020年5月12日)	上期 (1-6月)	下期 (7-12月)	通期
Brent 油価(\$/bbl)	40.4	30.0	35.2
為替レート(円/US\$)	109.5	110.0	109.7



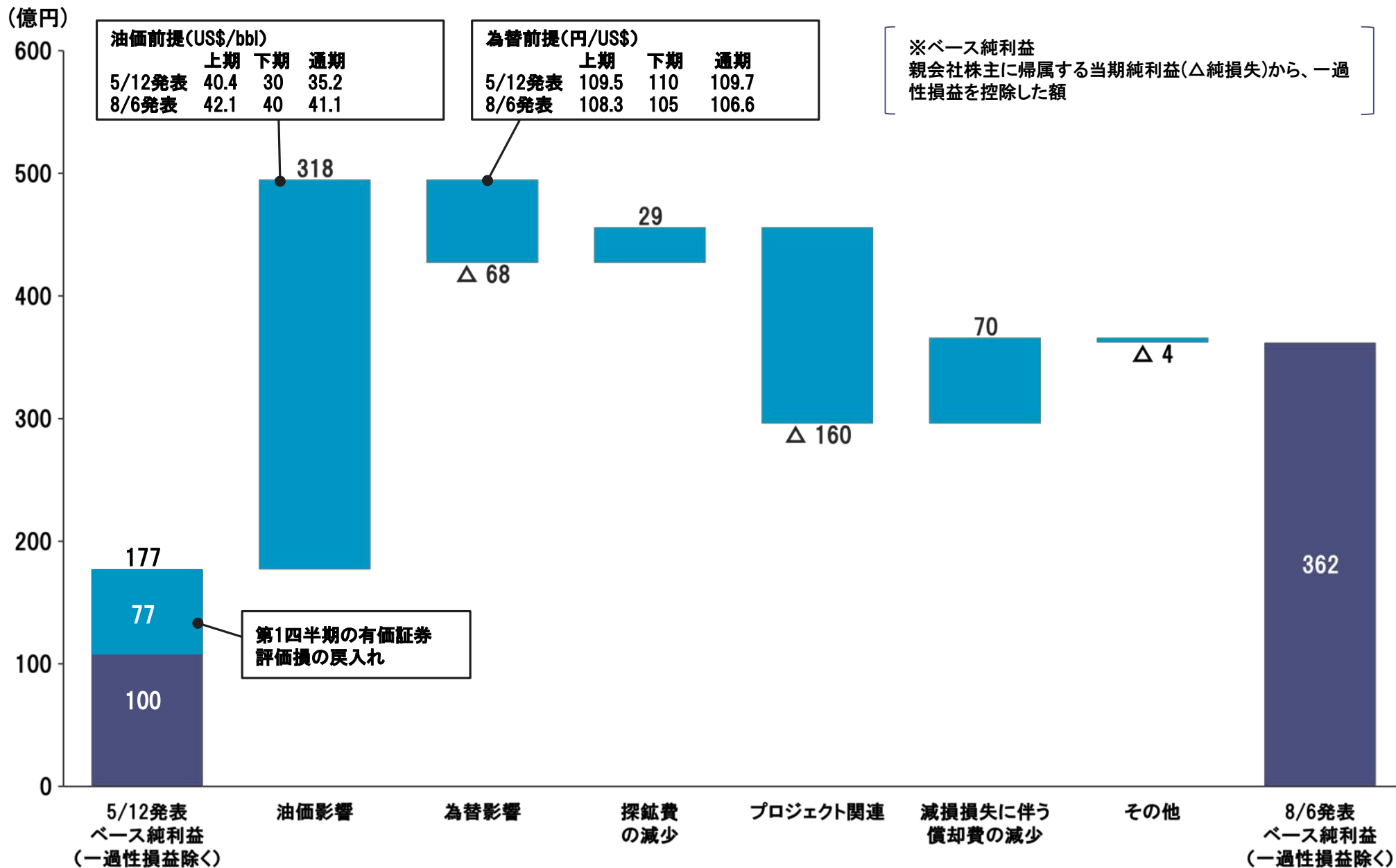
(2020年8月6日)	上期 (1-6月)	下期 (7-12月)	通期
Brent 油価(\$/bbl)	42.1	40.0	41.1
為替レート(円/US\$)	108.3	105.0	106.6

■ 連結通期業績予想(2020年1月～12月)

	前回発表予想 (2020年5月12日)	今回発表予想 (2020年8月6日)	増減	増減率
売上高 (億円)	7,100	7,300	200	2.8%
営業利益 (億円)	1,720	2,030	310	18.0%
経常利益 (億円)	1,630	2,000	370	22.7%
親会社株主に帰属する純損益 (億円)	100	△1,360	△1,460	—

■ 1株当たり配当金

第2四半期末	期末(予想)	年間配当金(予想)
12円00銭	12円00銭	24円00銭



2020年12月期 通期業績予想 一過性損益の影響

